

着工前に安全祈願

旧大川小遺構 来春完了目指す

東日本大震災の遺構として保存される石巻市の旧大川小で16日、遺構の外構工事着工前に、安全祈願の神事が執り行われた。被災した校舎周辺を緑地化するなど公園として整備する計画で、来年3月の完了を目指す。

同小は津波で児童74人と教職員10人が犠牲となった。市は被災校舎には手をつけず、震災の伝承や防災教育を学ぶ場として外側から

見学できるようにする一方、周辺は慰霊と鎮魂の場として芝生を敷いて桜などを植樹し、「見るのがつらい」という遺族に配慮し、外周を植栽で囲むなどの工事を進める。

神事は被災校舎前で行われ、新型コロナウイルスの感染予防のため施工する「南光運輸」（本社・石巻市）の社員11人のみが出場した。同社の三浦正巳・緑化土木営業所長は



旧大川小校舎前で遺構整備着工前に執り行われた安全祈願の神事—石巻市で

「遺族を含め地元はいろんな思いがあると思うので、慰霊の場とな

るよう市と調整して進めたい」と話した。

現地で伝承活動を続

ける「大川伝承の会」共同代表で児童遺族の佐藤敏郎さん(56)は取材に「工事期間中も伝承活動が続けられるよう、エリアを設けてほしい」と要望。市震災伝承推進室の水沢秀晃室長は「工事の進捗を見ながら、安全な形で近づけるよう配慮したい」と話した。

【百武信幸】